

室蘭工業大学-学報

NO.651

室蘭工業大学、東京工業大学および九州工業大学による
科学技術に関する産学・人材育成連携 覚書締結式



室蘭工業大学、東京工業大学および九州工業大学による科学技術に関する産学・人材育成連携覚書
締結式・三工大連携シンポジウムを開催
(22ページに関連記事あり)

2024年 1月号

目 次

◇ 海外紀行 ◇	
THE Asia Universities Summit 2023・香港城市大学・マカオ大学訪問記	1
温世仁基金会・台中科技大学・国立屏東大学訪問記	8
◇ トピックス ◇	
第16回アジア鋳物会議の開催	12
「インスタで室蘭工業大学の魅力発見！学生フォトコンテスト2023 in Summer」の受賞者が決定	13
「ムロぴょんホットサンド第1弾」の販売を開始	14
令和5年度第2回定例記者懇談会を開催	15
「研究成果の見せ方」講座を開催	16
学術分野別のTHE世界大学ランキング2024「Engineering」で1001+位にランクイン	17
名古屋大学との共同研究「液液デトネーションエンジンの燃焼試験」を実施	18
董冕雄副学長（しくみ解明系領域・教授）が世界最高峰の研究者を選出するHighly Cited Researchers 2023に選出	19
室蘭工業大学、東京工業大学および九州工業大学による科学技術に関する産学・人材育成連携覚書締結式・三工大連携シンポジウムを開催	20
東京工業大学・室蘭工業大学・九州工業大学が科学技術に関する産学・人材育成連携覚書を締結	22
◇ 情報・資料 ◇	
MONOづくりみらい共創機構「プレ共同研究」（2回目）の採択	23
◇ 外部資金 ◇	
民間等との共同研究の受入れ	24
奨学寄附金の受入れ	25
◇ 人 事 ◇	
人事異動	26
◇ 学内会議 ◇	
学内各種委員会等の開催	27
◇ 日 誌 ◇	
学内行事・学外行事	28

海外紀行

THE Asia Universities Summit 2023・ 香港城市大学・マカオ大学訪問記

空閑良壽、董 冕雄、太田 香、齊藤雅利

1. はじめに

2023年6月20日～25日にかけて、本学空閑良壽学長、董 冕雄副学長、太田 香教授、齊藤雅利経営企画課副課長で香港及びマカオを訪問しました。今回の訪問目的は、香港中文大学で開催された「THE Asia Universities Summit 2023」への出席及び香港城市大学・マカオ大学への訪問です。以下に、その訪問の記録を記します。

2. THE Asia Universities Summit 2023関連

2-1. THE Asia Universities Summit 2023 プレイベント

6月20日に、「THE Asia Universities Summit 2023」のプレイベントとして、香港科技大学主催のカクテルレセプションが開催され、空閑学長、董副学長、太田教授、齊藤が出席しました。レセプションを主催した香港科技大学（The Hong Kong University of Science and Technology）は、香港・西貢区に本部を置く香港の公立大学で、1991年の創立以来急成長を遂げている世界トップクラスの研究大学として、国際的に高い評価を得ています。学生数約1万人、Times Higher Education（THE）社のAsia University Rankings2023では、7位にランクされています。

カクテルレセプションは、香港中環のジャクソンロード近くの香港クラブビルで開催され、本学代表団は招待されていたアジア各国の高等教育指導者の方々と積極的にディスカッションや情報交換を行いました。



写真1 香港科技大学Provost Guo教授と記念撮影



写真2 カクテルレセプション会場の様子1



写真3 カクテルレセプション会場の様子2

2-2. THE Asia Universities Summit 2023 於香港中文大学

6月21日～23日の間、香港沙田区にある公立香港中文大学において、「THE Asia Universities Summit 2023」が開催され、空閑学長、董副学長、太田教授が出席しました。

当Summitは、世界大学ランキングを運営するTimes Higher Education (THE) 社の主催の国際イベントで、2016年から毎年開催されており、今年は8回目となります。

今回は、アジア太平洋地域の著名な大学のリーダーなど500名を超える参加者が集まり、「The Asian university 2050 (2050年のアジアの大学)」をメインテーマとして、3日間にわたって各国の学長、教育関係者、政府関係者などによる講演、パネルディスカッションが行われていました。各セッションとも、大学が国や学問領域を越えてグローバル社会全体が直面する課題に取り組むための活発な意見交換議論がなされ、盛況のうちに終了しました。



写真4 Summit参加学長による記念撮影



写真5 早稲田大学田中総長（左から二人目）と記念撮影



写真6 会場の様子（Asia Summitウェブサイトより）



写真7 マカオ大学宋永華学長と記念撮影

3. 香港城市大学訪問関連

3-1. 香港城市大学との昼食会及び研究センター訪問

6月21日、香港城市大学関係者から招待を受け、空閑学長、董副学長、太田教授、齊藤で昼食会に出席しました。先方からは、Vice-President Li教授とAssociate Provost Wang教授が出席され、情報交換を行いました。

香港城市大学（City University of Hong Kong）は、香港の中心部である九龍塘に本部を置く公立大学です。1984年設立、学生数は、約2万人、ビジネス学部、工学部、教養社会科学部、理学部、獣医学生命科学部、クリエイティブメディア学部、データサイエンス学部、エネルギー環境学部、法学部の9学部を有する総合大学であり、コーネル大学と提携して2016年に開設したアジア初の6年間の獣医学士プログラムや香港初であるデータサイエンス学部などに強みを有しています。THE Asia University Rankings2023では、16位にランクされています。

昼食会の後は、香港城市大学Center Of Super-Diamond and Advanced Films（COSDAF）を見学させていただきました。COSDAFは、ナノマテリアルとナノテクノロジーに焦点を当てた研究センターで、半導体ナノ材料、ナノ有機発光ディスプレイ、ダイヤモンド、ナノコーティングを中心に研究が進められています。空閑学長は久しぶりに研究者に戻ったご様子で、説明を担当されたZhang教授に熱心に質問をされていました。



写真8 昼食会 Vice-President Li教授、Associate Provost Wang教授とともに



写真9 香港城市大学外観

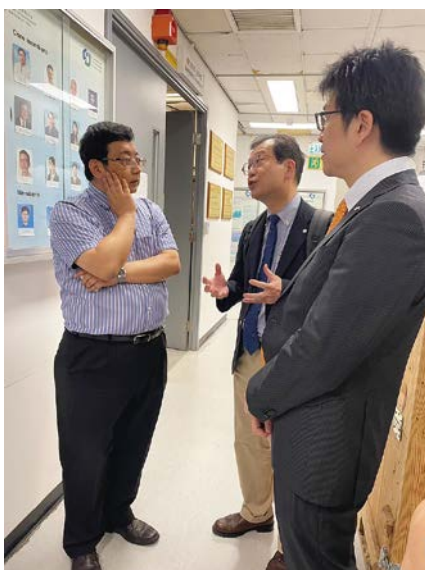


写真10 Zhang教授に質問する空閑学長

最後に、学長のFreddy Boey卓越教授を訪問し、研究や国際交流面での連携可能性について意見交換を行いました。香港城市大学は、アジアTOPクラスの大学であるにも関わらず、日本からの交換留学生やサマースクール参加の研修生の受け入れがこれまでほとんどないため、Freddy Boey学長からも本学からの派遣に大きな期待が寄せられていました。ただし、単位取得を伴う中長期の留学の場合は、英語のかなり高い能力が求められることから、本学側から観るとこのあたりのハードルの高さが課題となりそうです。一方で、2週間程度の短期研修、生活体験からスタートしていくことは十分可能性がありそうです。



写真11 意見交換の様子



写真12 Freddy Boey学長へ大学グッズ贈呈

4. マカオ大学訪問関連

4-1. マカオ大学訪問

6月23日、本学代表団は、クロスボーダータクシーを利用して、香港からマカオへ向かいました。香港からマカオへは、2018年に開通した全長55kmの世界最長の海上橋である港珠澳大橋（Hong Kong-Zhuhai-Macao Bridge）を通っていきます。これまで、香港とマカオ間の移動手段はフェリー（所要時間1時間）が基本でしたが、港珠澳大橋が開通したことにより、陸路で時間も30分程度で到着できるようになっていました。

ここで、マカオについて簡単に紹介します。マカオは、珠江河口をはさんで香港の対岸にある、中国本土の南海岸に位置する特別行政区です。調べてみましたところ、マカオの人口はおよそ67万人で面積は33.3km²であり、マカオを一つの地域とみれば、マカオは世界でもっとも人口密度が高い地域で、1km²あたり実に2万人が居住しているそうです。ちなみに、室蘭市は、人口およそ7万7千人、面積80.65km²、人口密度は954人/km²となっており、マカオの人口密度の高さが伺えるかと思います。

また、マカオは1999年までポルトガルの海外領土であったことから、東西文化の融合が色濃く残っており、コロアン島とタイバ島を連結して埋め立てたコタイ地区は、「アジアのラスベガス」と呼ばれています。道中の車窓からは、巨大なカジノやホテル、ショッピングモールなど高層のビルが立ち並んでいるのが見えました。

香港のホテルを出発してから、2時間ほど経過し、マカオ大学に到着しました。Fen准教授とYuan准教授が代表団を出迎えてくれて、マカオ大学所有のゲストハウスにチェックインした後、場所を移動して、副学長 Rui Paulo MARTINS 教授から、大学全体のミニチュアの立体模型と紹介動画を使ってマカオ大学の歴史と3大Key researchラボの丁寧な説明を受けました。



写真13 キャンパスの立体模型の前で説明を受ける



写真14 空閑学長と Rui Paulo MARTINS副学長記念品交換



写真15 全員で記念撮影

マカオ大学（University of Macau）は、ポルトガル領マカオの最初の大学として、1981年に「東亜大学」の名で私立大学として創立され、1988年には政府出資のマカオ基金会が買収し公立大学に改組されました。1991年、「澳門（マカオ）大学」に改称、2014年、マカオ対岸の横琴島（地理上は中国本土）にキャンパスを移転して現在に至るそうです。敷地に関しては、中国本土からの支援（貸与）を得ているとのことでした。

学生数は、約1万人、人文学院、工商管理学院、健康科学学院、教育学院、理工学院、法学院、社会科学学院の7つの学部を有し、THE Asia University Rankings2023では、37位にランクされています。

マカオ大学のキャンパスは広大な敷地を有し、見事に整備された別空間であり、欧米のキャンパスの雰囲気もありました。



写真16 マカオ大学キャンパス



写真17 マカオ大学ゲストハウス

4.2. マカオ大学研究ラボ訪問

翌日の6月24日は、Yuan准教授が休日にもかかわらず、マカオ大学の特徴のある研究の紹介、研究ラボの見学を企画してくれました。

Yuan准教授が所属するState Key Laboratory of Internet of Things for Smart City (SKL-IOTSC) は、この分野におけるマカオ内初のKey Laboratoryであり、このLaboratoryでは、スマートシティ向けの革新的なアプリケーションの開発を進めていました。主にインテリジェントセンシングとネットワーク通信、都市ビッグデータとインテリジェントテクノロジー、スマートエネルギー、インテリジェント交通、公共安全と防災の5つの分野で研究を進めているそうです。

マカオ大学は、マカオ市と密接に連携しており、交通、防災（風雨波）などのビックデータが大学に収集される仕組みが出来上がっていました。自動運転システムデータを現場に応用する実験システムも構築が進みつつあり、董副学長と太田教授は、ご専門が近いこともあり、Yuan准教授と熱心に意見交換をされていました。



写真18 SKL-IOTSCで記念撮影



写真19 Yuan准教授から研究の説明を受ける

4.3. 学長主催食事会

6月24日の夜、2日間にわたるマカオの大学紹介と懇談の労に感謝の意を込めて、本学学長主催の食事会をマカオ中心部のレストランで実施しました。Fen准教授とYuan准教授をご招待し、本学代表団メンバーとマカオや中国の大学での研究・教育の実情やその予算規模、本学や日本の大学の研究・教育の状況に関する情報交換をはじめ、研究や国際交流面での連携可能性について食事をしながら懇談を重ねました。



写真20 学長主催食事会 Fen准教授とYuan准教授

5. 事務職員所感

大学の国際化、グローバル化の重要性が我が国においても説かれているところですが、普段国内で日々の業務に従事していると、同じ大学業界とはいえ、なかなか海外他大学の情報、状況に触れる機会が少ないものです。

このたびの香港およびマカオ訪問では、各大学関係者との対談のなかで、各大学の重点研究分野や留学生戦略などを海外大学の状況を直接伺うことができ、事務局職員として貴重な経験を積む大変よい機会となりました。これらの経験を活かし、さらなる本学の発展に貢献していきたいと思えます。

6. 学長所感

今回、「THE Asia Universities Summit 2023」期間中にお会いした大学関係者、とりわけ香港、マカオに所在する香港大学、香港中文大学、香港科技大学、香港理工大学、マカオ科学技術大学等をはじめとして、アジアのみならず世界のTOPレベル校が数多くありました。また、実際に訪問、研究室・施設見学した香港城市大学、マカオ大学もアジア、世界のTOPクラス校でありました。このような大学ランキングでは、おしなべて日本の大学は苦戦しているところですが、今回出会った大学においては、本学との交流を大変、前向きに真摯に考えてくれており、今回の訪問を契機に、教員間のみならず、学生諸君の交流や派遣につなげて、交流の実質化を進めていくことが大変重要と捉えています。

また、昨年7月の台湾訪問の際にも同様なことを感じたように、アジア諸国の研究・教育に関する活力、エネルギーの大きさをあらためて実感しました。国内文化・経済が発展し、独自の伝統に基づく教育・研究を発展させてきた日本にとっては、欧米圏・英語圏で作られた大学ランキングは不向き、不利だと目を背け続けるはられないことを痛感しました。大変早い速度で進む世界のグローバル化の中で、本学もしっかりとした戦略のもと、これに対応し取り組んでいく必要があります。

7. おわりに

今回訪問した香港城市大学、マカオ大学ともに、学生同士の交流や本学との共同研究などについて、興味を示しておりました。引き続き、両大学との友好を深め、共同研究や大学間の協定に繋がることを期待しています。

最後になりますが、本学代表団の訪問に際して、温かく受け入れてくださった香港城市大学およびマカオ大学の関係者の皆様にお礼を申し上げます。

台湾・温世仁文教基金会・国立台中科技大学・ 国立屏東大学訪問記

坂本裕子、白 尚燁、宮下慎也、董 冕雄、空閑良壽

1. はじめに

2023年11月22日～28日、本学の空閑 良壽学長、董 冕雄副学長、白 尚燁准教授、宮下 慎也総務広報課係長、坂本 裕子准教授が台湾を訪問しましたので報告します。今回の訪問目的は温世人文教基金会及び国立台中科技大学訪問、国立屏東大学創立10周年記念式典及び同大学主催グローバル学長サミットへの出席です。以下に、その訪問記録を記します。

2. 温世仁文教基金会訪問

2-1. 温世仁文教基金会概要

台北市にある温世仁文教基金会は、2007年に夫人の呂 来春女史により創設されました。温 世仁氏（1948年1月～2003年12月）は、国立台湾大学大学院修士課程で電機システム工学を専攻し、在学中に台湾初のパソコンを製作しました。卒業後、台湾企業でパソコン製作に携わり、日本語学習のために日本留学を経験しました。その後、カシオ、シチズン、HP等から受託生産を行う台湾企業Inventec工場長兼常務取締役、取締役社長、副会長を務める等、台湾を代表する企業人として活躍しました。

温世仁文教基金会は、「生涯学習の促進と優秀な人材の育成」と「革新的な技術を活用した産業価値の実現」を使命に、小中学生の社会教育、高校・高等職業学校及び大学のキャリア教育の強化、社会人の分は野横断的な学習の推進、サービスサイエンス・サービスイノベーションの推進などを主要な方針として活動しています。

2-2. 温世仁文教基金会との協議

今回の訪問は、温世仁文教基金会の招待によるもので、基金会の何 能裕執行董事長、楊 香容副執行長らから基金会の目的や活動、今後のビジョンについて、説明を受けました。

基金会では、東南アジアを中心に大学生によるプレゼンテーションコンテストを実施しています。2023年5月にマレーシアで行われたコンテストには、東南アジアから約250名の学生が参加し、世界的な課題解決についての発表が行われました。

基金会では、今後、日本の高等教育機関との連携強化を図るべく、来年には、基金会幹部が本学を訪問し、具体的に協議を深めたいとの考えが示されました。



写真1 温世仁文教基金会何執行董事長に
記念品を手渡す空閑学長



写真2 温世仁文教基金会での協議

3. 国立台中科技大学訪問

本学と国立台中科技大学の交流は2016年に始まり、7年にわたり学術交流を続けてきました（同大学概要及び2019年の訪問記に関しては、学報No.596およびNo.602、2022年の訪問記に関しては、No.639参照）。2023年8月に新たに陳 同孝氏が学長に就任されたところ、本学代表団の訪台に際して、今後の連携強化のために訪問しました。

協議では、台中科技大学側の窓口教員である連 璋俊教授が、これまでの両大学の交流と今後の交流ビジョンについて説明されました。現在、本学を含めた日本、台湾、タイの7大学が連携する国際デザインワークショップ（International Engineering Design Challenge）が実施されており、今後は、情報分野を中心に、さらに研究交流を深めていくことが提案されました。2024年4月に2名、10月に1名の交換留学生の本学での受け入れが計画されています。

陳 永隆情報・流通学部長からは、本学学生が台中科技大学への留学に期待が寄せられ、空閑学長は、まずは、短期研修などで学生を海外留学に動機づけて長期留学へつなげるとともに、教授間の研究協力の強化を図り、交流を促進していくと話されました。



写真3 国立台中科技大学陳同孝新学長に記念品を手渡す空閑学長



写真4 国立台中科技大学における協議

4. 国立屏東大学訪問

4-1. 国立屏東大学創立10周年記念式典

本学は2023年7月に新たに国立屏東大学と学術交流協定を締結しました（同大学概要及び2023年の訪問記に関しては、学報No.647参照）。

今般、国立屏東大学では、前身である屏東師範大学と屏東商業管理学院が合併して10周年を迎え、それを祝う記念式典に招待されました。

式典には、市政府関係者、台湾南部の大学長、高等学校長等に加え、海外姉妹校10校の関係者、そして、初代学長である古 源光前学長（現義守大学学長）もお祝いに駆け付け、盛大に行われました。



写真5 国立屏東大学創立10周年記念式典で陳 永森学長に本学記念品を手渡す空閑学長



写真6 情報学部との協議

午後には、本学との交流が予定されている情報学部との協議と施設見学を行いました。今後の双方向での研究と学生の交流が期待されます。



写真7.8 情報学部の施設を見学する本学代表团

4-2. 国立屏東大学主催国際大学学長フォーラム

創立記念式典の翌日、国立屏東大学が主催する国際大学学長フォーラム（International University Presidential Forum）に出席しました。屏東大学の海外姉妹校10校の代表者が出席し、“Borderless-The future of University Social Responsibility”をテーマに、急激に変化する時代において、大学の社会的責任について各機関の取り組みが紹介されました。

フォーラムでは、まず、屏東大学陳学長が屏東大学の取り組みとして、社会貢献のために、専門スキルや技術力のみならず、ソフトリソースとして、いかして社会貢献できる人材育成を行っているか、またキャンパスの充実や学習環境の向上等の取り組みに対する世界ランキングの評価を報告しました。

本学からは、空閑学長が「確かな研究力をベースとした教育力」という理念の下で、本学が行っている「教育」、「研究」、「共創」における取り組みについて紹介し、地域に貢献できる理工系人材の育成、世界水準の研究力、北海道を世界水準の価値創造空間へ導いていくことに取り組んでいることについて発表しました。

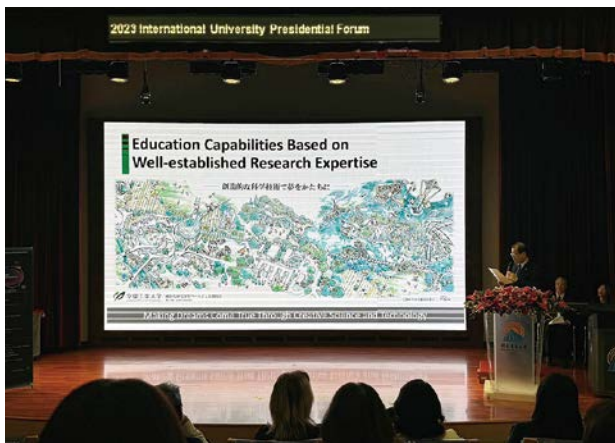


写真9 国立屏東大学主催グローバル学長フォーラムで本学の取り組みを発表する空閑学長



写真10 国立屏東大学陳永森学長から感謝状を手渡される空閑学長

4.3. 短期研修プログラム視察

代表团は、2024年3月に国立屏東大学で実施される短期研修の視察を行いました。屏東大学での研修は、本学学生8名が参加し、10日間の日程で、中国語学習と台湾文化体験、ICT研究室体験、TEDxスタイルの英語によるプレゼンテーション、台湾学生との交流等充実したプログラムが予定されています。

代表团は、本学学生が見学する予定の台湾最南端の墾丁を訪れ、多くの日本の戦没者が眠るバシー海峡も見学しました。昼食会には、国立屏東大学陳学長と欧 家和情報学部長、詹 勳国理学部長が駆け付け、屏東の豊かな自然と文化、産業について陳学長、自ら説明いただき、有意義な時間となりました。



写真11 東港にある東隆宮を訪問



写真12 国立屏東大学陳永森学長から説明を受ける本学代表团

3. 事務職員所感

室蘭工業大学と事務職員のグローバル化。ネットワーク社会の急激な進展に伴い、日本におけるグローバル化は急速に進んでいると言われてはいますが、私たち事務職員がグローバルな世界を実感できる機会はそう多くはありません。私は過去に国際交流センターに所属していたことがあります。当時の国際交流センター長から「日本からの視点だけではなく、世界をみる必要があります。そのためのツールとして英語も勉強しましょうね!」と助言を受けました。その助言を受け、留学生や海外協定校の教職員などとの積極的な交流や国際情勢に多く触れるようにし、自己流のグローバルな視点が身に付くきっかけとなったことは今でも覚えています。(ツールとしての英語はさっぱりでしたが…)

国際交流センターから離れて、早10年…。

詳細事例は省略しますが、今回の台湾訪問に際し、私の自己流のグローバルな視点は甘かったこと、台湾の情報化社会は日本より数段進んでいることを理解することができました。室蘭工業大学を含め日本の大学は、世界に取り残されないため更なる国際化が必要であると考えます。国際化を進めるためには、教員だけではなく事務職員もグローバルな視点で業務を行うことが必要であると感じております。今回の台湾訪問は、その重要性を再認識できた貴重な経験となりました。そして、急速に進んでいる「人工知能」により英語の勉強は必要なくなると感じていましたが、その認識は少し甘かったようですので、最低限の英語力は鍛え直したいと思います。

4. 学長所感

国立台中科技大学との大学としての交流は2016年、国立屏東大学との交流は2023年、温世人文教基金会とは今回、その他、台湾の大学・機関との交流の多くは、私が学長に就任してから始まっています。私の海外訪問も台湾が最も多く、今回で学長任期中5回目の台湾訪問となり、ほぼ台湾の全域をカバーする大学等機関との連携が実現しています。これにより教員はもとより、学生諸君の派遣・交流の場が大きく広がり、実際に今年の3月には学生諸君の研修も予定されており、私たちが研修先の一部を視察することができました。これまでも報告しましたように、台湾では日本と同様あるいはそれ以上に少子高齢化問題が深刻であり、学生確保、入学志願者確保、高齢者のQOLの向上に関して、大きな危機感を持っています。そして、その対応策に関して、アジア諸国との学生の交流、連携大学や国を超えた異文化の交流・ふれあいを通したダイバシティの観点からも、学生諸君の人材育成に関してスピード感を持って取り組んでいます。本学においても、ひきつづき、優秀な志願者確保に関して、国内のみならず海外からの優秀な留学生の確保や単位互換制度やダブルディグリー制度等の検討も重要です。今回は総務広報兼秘書の宮下係長にも同行してもらい、学長以上に危機感、海外大学・研究機関の動向を肌で感じ、教職員・学生諸君との交流や広報活動に良い刺激を受けてくれたと思います。

今年4月からは新しい体制の本学執行部が起動しますが、そこでも本学の国際交流活動の活性化と伸長の方向性は同様だと思えますし、学長自らのTOP外交も重要であると思えます。

5. おわりに

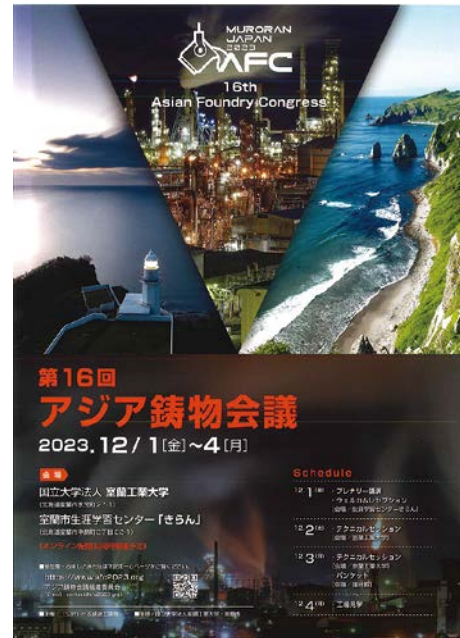
台湾は、地政学的にアジア太平洋地域において重要であるだけでなく、ICT、半導体分野において世界的に重要な立場にありますところ、本学が台湾との連携を拡充できていることは、非常に意義があると思料します。

最後になりますが、本学代表団の訪問に際して、温かく受け入れてくださった温世人文教基金会、国立台中科技大学、国立屏東大学の関係者の皆様に深謝申し上げます。

トピックス

第16回アジア鋳物会議の開催

令和5年12月1日(金)から4日(月)の4日間、室蘭工業大学及び室蘭市生涯学習センター「きらん」にて、日本鋳造工学会（代表：ものづくり基盤センター長 清水一道教授）が主催の第16回アジア鋳物会議が開催されました。



「インスタで室蘭工業大学の魅力発見！学生フォトコンテスト2023 in Summer」の受賞者が決定

令和5年7月6日～10月27日まで募集していた「インスタで室蘭工業大学の魅力発見！学生フォトコンテスト2023 in Summer」では、たくさんのご応募をいただき、誠にありがとうございました。

学内で審査を行い、受賞者が決定いたしましたので公表いたします。

今後、受賞者に対し表彰式が行われる予定です。

【受賞作品】



作品名「白老実験場の美しさ」 Jason Nathanael
学長賞



作品名
「Nocturnal Unity: Embracing Muroran
IT's Night Charm」
Anusha Venkatachalpathy
広報室長賞



作品名「数秒の光」 坂井皓地
優秀賞



作品名「つなぎ目」 吉田光希
優秀賞

「ムロびょんホットサンド第1弾」の販売を開始

令和5年度12月5日(火)から、TENTOで「ムロびょんホットサンド第1弾」の販売を開始しました。

ムロびょんホットサンドは、室工大カフェ TENTO×学生広報スタッフ「むろこーほー」×室工大カフェファンクラブ「はんもっく」×家庭料理部の学生×ものづくり基盤センターによるコラボ企画で考案されました。

販売初日は企画メンバーがTENTOに集合し、チラシ配りを行いました。また、1日限定20個のムロびょんホットサンドは、約1時間で売り切れとなりました。

ムロびょんホットサンドを買いに来た創造工学科3年の藤川さんは「野菜がゴロゴロしていて塩焼きそばみたいで好きです。今回のムロびょんとTENTOのコラボホットサンドはSNSで映えそうなので、このような企画は嬉しいです。」と感想を述べていました。

ムロびょんホットサンドの販売は、令和5年12月26日までの期間、火曜日と水曜日に一日限定20個販売しておりますので、販売期間中にぜひTENTOへお越しください。



ムロびょんホットサンドを最初に購入した
システム理化学科1年 多田さん



創造工学科3年 藤川さん



ムロびょんホットサンド



チラシ配りをするコラボ企画のメンバー

令和5年度第2回定例記者懇談会を開催

令和5年12月4日(月)、大学会館の多目的ホールにて、令和5年度第2回定例記者懇談会を開催しました。

定例記者懇談会は、報道機関との相互理解や、定期的な意見交換の場になることを目的としたものです。

今年度第2回目は、内閣府事業「戦略的イノベーション創造プログラム(SIP)」(研究推進法人：国立研究開発法人科学技術振興機構(JST))の研究課題「ポストコロナ時代の学び方・働き方を実現するプラットフォームの構築」に採択された研究開発テーマ「Society5.0時代の農業における『新たな【学び】×働き方』のショーケースの提示と実証」について、本学の山中教授と伊達市長の堀井敬太氏が発表を行いました。

今回の研究開発テーマは、本学が代表研究機関(研究開発責任者：しくみ解明系領域 山中真也教授)として株式会社浅井農園(主たる共同研究者：浅井雄一郎代表取締役)、伊達市(主たる共同研究者：堀井敬太市長)、愛媛大学(主たる共同研究者：佐藤哲特命教授)と共同で応募し、採択されました。

記者懇談会では、山中教授から研究開発のコンセプトや今後の計画について説明があり、伊達市長からはSIP事業に対する伊達市としての意気込みなどが語られました。

また、記者からは開発テーマに関する質問が寄せられる等、活発な意見交換の場となりました。



多目的ホールで開催した記者懇談会の様子



山中真也 教授の発表の様子



伊達市長 堀井敬太氏の発表の様子

「研究成果の見せ方」講座を開催

令和5年12月7日(木)本部棟大会議室において、教職員を対象とした「研究成果の見せ方」講座を開催しました。

今回の講座は、広報室が主催し、山本佳世子氏(日刊

工業新聞社日刊工業新聞論説委員・編集局科学技術部編集委員)を講師に迎え、教職員36名が参加し、科学技術をはじめとするコミュニケーションのポイントや技術リリースによる情報発信などについて講演いただきました。



講演する山本佳世子氏



積極的に講座に参加する教職員

学術分野別のTHE世界大学ランキング2024 「Engineering」で1001+位にランクイン！

令和5年10月26日（ロンドン時間）、タイムズ・ハイヤー・エデュケーション（Times Higher Education）がWorld University Rankings 2024 by subjectを発表し、本学は「Engineering」分野で1001+位にランクインし、World University Rankings 2019 by subject から6年連続のランクインとなりました。

<https://www.timeshighereducation.com/world-university-rankings/2024/subject-ranking/engineering-and-it>

学術分野別の世界大学ランキングは世界の大学を各学術分野別に評価し、ランク付けしたものです。評価指標はTeaching（教育）、Research environment（研究環境）、

Research quality（研究の質）、Industry（産業）、International Outlook（国際性）の多様な指標に基づいて決定されており、本学の研究の影響力や国際性等が高く評価されました。

「Engineering」分野では、国内の大学は80校がランクインし、本学は35位タイに位置しています。また、北海道内でランクインしたのは本学と北海道大学の2大学のみとなっております。

本学は、6年連続でのTHE世界大学ランキング2024「Engineering」へのランクインとなり、この「確かな研究力をベースとした教育力」で、地域にそして世界に貢献できる理工系学生の育成に邁進します。



名古屋大学との共同研究 「液液デトネーションエンジンの燃焼試験」を実施

室蘭工業大学航空宇宙機システム研究センターでは、国立大学法人東海国立大学機構名古屋大学笠原研究室および静岡大学川崎研究室と2023年11/27-12/8に、本学白老エンジン実験場において亜酸化窒素（N₂O）およびエタノールをそれぞれ酸化剤・燃料とする液体デトネーションエンジンの燃焼試験を実施しました。

10日間の実験期間中には室蘭工業大学、名古屋大学、静岡大学から総計20名程度の教職員・学生が参画し、協働で試験運用に臨みました。また日程期間中には株式会社IHIや上智大学、ポーランドWarsaw Institute of Aviationの研究者らも視察のため実験場を訪れました。

当該エンジンは2024年度にJAXA/ISAS観測ロケットで宇宙空間に打ち上げられ、世界初の液体燃料・酸化剤によるデトネーションエンジンの動作実証を目指すものです。

2022年7月のシリーズでは主として着火タイミングの

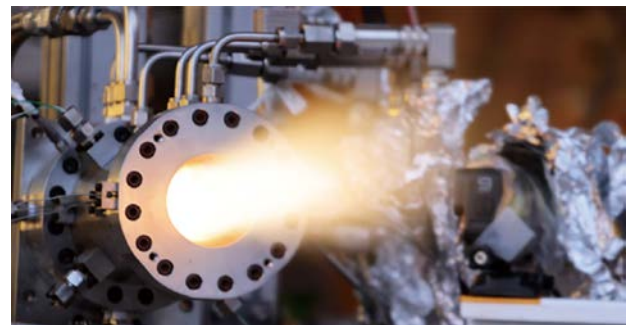
確立、2022年12月のシリーズでは主として長秒時燃焼におけるC/C複合材内壁の耐熱性確認、2023年5月のシリーズでは3種類の燃料噴射器を用いたデトネーション発生の有無への影響調査を実施しましたが、本シリーズでは噴射面の厚みを変えてデトネーション遷移状態への影響を確認する試験を行いました。また、氷点下の屋外環境の中、燃料や酸化剤の初期温度がデトネーション遷移に与える影響も調べられました。

来年2月には実際に宇宙実証するフライトモデルの最終地上試験を白老実験場で実施する予定です。

本研究は国立研究開発法人宇宙航空研究開発機構戦略経費「デトネーションキックモーター観測ロケット軌道投入実証」および科学研究費補助金特別推進研究「自律圧縮型デトネーション推進機の物理解明:高次統合化観測ロケット宇宙飛行実証展開」の経費により実施されたものです。



保安集合写真（12/6撮影）



デトネーション燃焼試験（12/1実施）

董冕雄副学長(しくみ解明系領域・教授)が世界最高峰の研究者を選出するHighly Cited Researchers 2023に選出

信頼性の高い変革的な知見を提供するグローバルリーダーであるクラリベイト・アナリティクスは、2023年11月15日、高被引用論文著者 (Highly Cited Researchers) 2023年版を公表し、本学からはクロスフィールド分野で董冕雄(とう めんゆう)副学長(しくみ解明系領域・教授)が選出されました。

Highly Cited Researchers高被引用論文著者には、特定出版年・特定分野における世界の全論文のうち引用された回数が上位1%に入る論文を複数発表しており、後続の研究に大きな影響を与えている科学者や社会学者が選出されます。2023年は科学を20の研究分野に分け、全世界で6,849名の研究者が選出されました。

日本からは大学等から90名の研究者が選ばれており、本学からは董冕雄副学長(クロスフィールド分野)が選ばれました。



室蘭工業大学、東京工業大学および九州工業大学による科学技術に関する 産学・人材育成連携覚書締結式・三工大連携シンポジウムを開催

室蘭工業大学、東京工業大学および九州工業大学は、科学技術に関する産学・人材育成連携の覚書を12月22日（金）に締結しました。今回の科学技術に関する産学・人材育成連携覚書締結により、科学技術に関する産学・人材育成連携覚書産業をリードする研究と教育を行う三大学がそれぞれの特性を活かした多様な連携を図ることで、我が国と世界の産業の発展を支える新しい理工系や科学技術領域の研究、産学連携、および先導的な教育・人材育成の更なる推進を図ります。

締結式において、室蘭工業大学の空閑学長は「覚書締結により、北海道・東京・九州と日本を縦断する形で位置する3つの国立工業大学の産学連携、そして理工系人

材の推進の観点から三大学連携がより具体化し、実現していくことを期待したい。北海道というフィールドを活かしたMONO・価値づくりへの貢献、課題解決に寄与していきたい」とコメントしました。

締結式終了後は、三工大連携シンポジウムが東京工業大学くらまえホールで実施されました。シンポジウムでは、室蘭工業大学の松田理事・副学長が開会の挨拶をし、青山室蘭市長などの来賓挨拶後に分科会が行われました。分科会は「フード&ヘルス分科会」・「AI分科会」・「航空・宇宙分科会」の3つのカテゴリに分かれ、本学からは徳楽教授、小林准教授、中田准教授が各分野毎の研究取り組みについて発表しました。



左から九州工業大学（三谷康範 学長）・
室蘭工業大学（空閑良壽 学長）・
東京工業大学（益一哉 学長）



締結に関してコメントする空閑学長



徳楽教授



小林准教授



中田准教授



徳楽教授の研究発表を聴講する参加者

東京工業大学・室蘭工業大学・九州工業大学が科学技術に関する産学・人材育成連携覚書を締結しました -日本を横断する三大学、地域の特性を活かし連携-

東京工業大学（学長：益一哉）、室蘭工業大学（学長：空閑良壽）、九州工業大学（学長：三谷康範）は、科学技術に関する産学・人材育成連携の覚書を12月22日に締結しました。産業をリードする研究と教育を行う三大学がそれぞれの特性を活かした多様な連携を図ることで、我が国と世界の産業の発展を支える新しい理工系や科学技術領域の研究、産学連携、および先導的な教育・人材育成の更なる推進を図ります。

各大学が、科学技術に関する研究・産学連携および人材育成を通じた地域・社会への貢献をミッションの柱としていることを踏まえ、以下の4点を目標に職員および学生の交流を図り、各大学の教育研究の水準を一層向上させるよう努力してまいります。

共同研究プロジェクトや人材交流を通して、新しい理工系や科学技術領域の研究成果の創出を推進し、国際的な研究水準の達成を目指すこと。

新しい理工系や科学技術領域の研究成果を、オープンイノベーションを通じて社会実装につなげ、社会貢献を図ること。

我が国と世界の産業を支えるイノベーション創出人材の育成に資するよう、より良い教育体制を確立すること。

海外の大学を含む他大学・機関との連携により、教育研究の更なる発展・向上を目指すこと。

東京工業大学概要

1881年に東京職工学校として設立され、1929年に東京工業大学となりました。140年を超える歴史をもつ理工系総合大学です。世界を舞台に科学技術の分野で活躍できる人材の輩出と地球規模の課題を解決する研究成果によって社会に寄与し、長期目標である「世界最高峰の理工系総合大学」の実現を目指しています。

室蘭工業大学概要

1887年に室蘭工業大学の祖となる札幌農学校工学科が設置され、1949年に室蘭工業大学となりました。自然豊かなものづくりのまち室蘭の環境を活かし、総合的な理工学教育を行い、未来をひらく科学技術者を育てるとともに、人間・社会・自然との調和を考えた創造的な科学技術研究を展開し、地域社会さらには国際社会における知の拠点として豊かな社会の発展に貢献します。

九州工業大学概要

1909年に開学した私立明治専門学校を前身とする国内屈指の伝統を持つ国立大学です。建学の精神「技術に堪能なる士君子の養成の実践により、これまでに7万人超の技術に精通した知性溢れるエンジニアを世界に送り出すとともに、学術の進展につながる知の創造、産業界の競争力強化ならびに地域の発展に寄与してきました。九州工業大学は、わが国の産業発展のため、品格と創造性を有する人材を育成します。

MONOづくりみらい共創機構「プレ共同研究」(2回目)の採択

令和5年度MONOづくりみらい共創機構プレ共同研究(2回目)公募の結果、次のとおり採択されました。

本事業は、本学教員と民間機関等との研究者が、次年度以降において民間機関等との共同研究へ発展させるための前段階に相当する共同研究に対して助成を行うものです。

研究代表者・職・氏名	民間企業等	採択金額 (千円)
もの創造系領域 教授 廣田 光智	(株)マテック	500
もの創造系領域 准教授 湊 亮二郎	(株)ネッツ	475
合 計 (2件)		975

外部資金

民間等との共同研究の受入れ

研究代表者・職・氏名	相手方区分	金額 (千円)
もの創造系領域 教授 清水 一道	大 企 業	1,573
もの創造系領域 准教授 KIM JIHOON	外 国 企 業	1,950
もの創造系領域 准教授 佐藤 孝洋	大 企 業	770
もの創造系領域 准教授 佐藤 孝洋	大 企 業	500
もの創造系領域 准教授 中田 大将	そ の 他	299
しくみ解明系領域 教授 山中 真也	中 小 企 業	1,300
合 計 (6件)		6,392

※大企業・中小企業の別は、中小企業基本法（昭和38年法律第154号）第2条による。

奨学寄附金の受入れ

寄附者	目的	金額 (千円)
株式会社ドーコン	工学研究助成	330
株式会社ドーコン	工学研究助成	150
東洋建設株式会社	工学研究助成	500
株式会社ドーコン	工学研究助成	560
東光電気工事株式会社	工学教育助成	400
株式会社ドーコン	工学研究助成	3,000
株式会社浅井ゲルマニウム研究所	工学研究助成	50
特定非営利活動法人 地下資源イノベーションネットワーク	寄附講座	1,000
スチールプランテック株式会社	工学研究助成	500
合 計 (9件)		6,490

人 事

人 事 異 動

国立大学法人
室蘭工業大学長発令

発令年月日	異 動 内 容	氏 名	現 職
令和6年1月1日	<p>〈採 用〉《クロスアポイントメント制度適用》</p> <p>大学院工学研究科教授（しくみ解明系領域）</p>	小笠原 克 彦	北海道大学大学院 保健科学研究所教授
令和6年1月1日	<p>〈昇 任〉</p> <p>大学院工学研究科教授（しくみ解明系領域）</p> <p>大学院工学研究科教授（しくみ解明系領域）</p> <p>大学院工学研究科准教授（もの創造系領域）</p>	岡 田 吉 史 渡 邊 真 也 武 内 裕 香	大学院工学研究科准教授 （しくみ解明系領域） 大学院工学研究科准教授 （しくみ解明系領域） 大学院工学研究科助教 （もの創造系領域）
令和6年1月1日	<p>〈採 用〉</p> <p>総務広報課係員（人事企画係）</p>	外 岡 大 輔	
令和6年1月1日	<p>〈配置換〉</p> <p>総務広報課図書学術情報室主任（運用係）</p> <p>総務広報課主任（秘書係）</p>	伊 藤 綾 香 遠 藤 仁 郎	総務広報課主任（秘書係） 総務広報課主任（人事企画係）
令和6年1月1日	<p>〈採 用〉</p> <p>総務広報課総務広報係事務補佐員</p>	坂 本 志 布	
令和6年1月1日	<p>〈雇用期間更新〉</p>	本 庄 美智江	総務広報課図書学術情報室 事務補佐員

学内会議

学内各種委員会等の開催

<11月25日～12月24日>

開催日時 令和5年11月28日(火)
会議名 第23回役員会

開催日時 令和5年11月29日(水)
会議名 第5回経営協議会

開催日時 令和5年11月29日(水)
会議名 第24回役員会

開催日時 令和5年11月30日(木)
会議名 第6回大学院工学研究科博士後期課程専攻長等会議

開催日時 令和5年12月12日(火)
会議名 第25回役員会

開催日時 令和5年12月14日(木)
会議名 経営協議会(臨時)

開催日時 令和5年12月14日(木)
会議名 第8回学長特命連絡会

開催日時 令和5年12月14日(木)
会議名 第8回教育研究評議会

開催日時 令和5年12月14日(木)
会議名 第26回役員会

開催日時 令和5年12月19日(火)
会議名 第4回企画戦略会議

開催日時 令和5年12月21日(木)
会議名 第4回教授会

学内行事

- 12月4日(月) 令和5年度第2回定例記者懇談会
- 12月11日(月) 合格発表【2024年4月入学 理工学部編
入学マレーシア・ツイニングプログラム
入試】
- 12月13日(水) 室蘭工業大学大学院説明会(オンライン)

学外行事

- 11月25日(土) 国立屏東大学創立10周年記念式典(台湾)
- 11月26日(日) グローバル学長サミット2023(台湾)
- 11月28日(火) 第6回全国ダイバーシティネットワーク
総括シンポジウム(オンライン)
- 12月1日(金) 第2回国立大学協会北海道地区支部会議
(登別市)
- 12月22日(金) 三工大(室蘭工業大学・東京工業大学・
九州工業大学)覚書締結式・連携シンポ
ジウム(東京)

編集後記

◆ 広報の仕事にかかわることになり、初めて編集後記を書くことになりました。こんなこともやっているんだと、驚く毎日です。室蘭工業大学の広報、なかなか頑張っていると思います。室蘭工業大学のマスコット「ムロびょん」、学内外で見かけることが多くなってきましたね。Youtubeでは「ムロびょんのうた (KENTOさん)」公開されております。一度再生してみてください。MVも素晴らしい出来栄です。LINEのスタンプも販売中です。なんとカフェ TENTOさんではホットサンドに続いて、ラテアートの試作も進んでいるようです。いつの日かマスコット「ムロびょん」が室蘭工業大学より有名になってくれたらいいですね、個人的にはぬいぐるみの販売が始まればいいなと思っています。



(Garoon : 総務広報課総務広報係、E-mail : koho@muroran-it.ac.jp)

(総務広報課総務広報係)



室蘭工業大学のキャラクター「ムロびょん」

■編集発行 室蘭工業大学総務広報課
〒050-8585 室蘭市水元町27番1号 電話 0143-46-5014

■印刷所 株式会社日光印刷
電話 0143-47-8308